

出演者プロフィール

大竹 しのぶ (おおたけ・しのぶ)

1975年に映画『青春の門～筑豊篇』でデビュー。同年、NHK朝の連続テレビ小説『水色の時』でヒロインを演じ、全国的人気を獲得する。その後、その抜き出た演技力で舞台、映画、テレビ等で活躍。最近の舞台では『売り言葉』(野田秀樹作・演出)、『太鼓たたいて笛吹いて』(井上ひさし作・栗山民也演出)、『欲望という名の電車』、『マクベス』、『エレクトラ』(共に蜷川幸雄演出)、『奇跡の人』(鈴木裕美演出)、『喪服の似合うエレクトラ』(栗山民也演出)、『蛇よ!』(松尾スズキ作・演出)、『メディア』(蜷川幸雄演出)に出演。紀伊國屋演劇賞個人賞、朝日舞台芸術賞、読売演劇大賞等の主だった演劇賞を受賞した。映画作品では、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞をはじめ多くの映画賞に輝いた『鉄道員(ぽっぽや)』(降旗康男監督)、『GO』(行定勲監督)をはじめ、『阿修羅のごとく』(森田芳光監督)、『ふくろう』(新藤兼人監督)等。テレビでは『オードリー』(NHK)、『実録・福田和子』(CX)等ドラマの他、バラエティ番組のレギュラー出演や、コンサートを始め音楽活動も積極的に展開している。

製作スタッフプロフィール

〔製作プロデューサー〕 北村 明子 (きたむら・あきこ)

シス・カンパニー代表取締役。NODA・MAPプロデューサー。

80年代の小劇場ブームを牽引した野田秀樹の「劇団夢の遊眠社」で、プロデューサーとして活躍。

85年、劇団に所属する俳優たちの外部出演(映画・テレビ・ナレーション・CMなど)の営業マネージメントを主な業務とする映放部「えーほーしろう会」を劇団内に設立。

89年に「シス・カンパニー」として法人独立した。

92年劇団解散以降は、元劇団員に限らず新たなアーティストを加え、マネージメント業務を拡張。

野田秀樹をはじめ、野村萬斎、大竹しのぶ、堤真一、段田安則、山本太郎、八嶋智人、高橋克実 他、多数の人気俳優の舞台・映像分野のマネージメントを手がける。

また、1993年、野田秀樹の舞台製作を手がけるNODA・MAP設立とともに、その業務を全面的に引き受け、年間1～2本の作品を上演。加えて、年に2～3本のシス・カンパニー・プロデュース公演も企画製作。「俳優マネージメントと企画製作」の2本立てで、総合的なエンタテインメント活動を展開中。2005年愛・地球博で、瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」プロデューサーを務めている。

〔演出〕 鈴木 勝秀 (すずき・かつひで)

早稲田大学在学中から演劇活動を開始し、1987年にプロデュース・ユニット「ZAZOUS THEATER」を旗揚げ。主宰として全作品の構成・演出をつとめる。演劇作品だけでなく、音楽ライブ、映画、テレビの脚本も多い。最近の演出作品は『欲望という名の電車』(青山円形劇場)、『大竹しのぶ一人舞台 POP?』(スパイラルホール)、『BENT』(PARCO劇場)、『LYNX』(青山円形劇場)、『ダム・ウェイター Bバージョン』(シアター tram)、『偶然の男』(スフィアMEX)、『DefileD』(シアターコクーン)、『ママがわたしに言ったこと』(青山円形劇場)等多数。

〔美術〕 二村 周作 (ふたむら・しゅうさく)

「ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ」など斬新な美術デザインで注目の若手舞台美術家。

1966年武蔵野美術大学 造形学部空間演出デザイン学科卒業。

2001年ロンドン セントマーチン・カレッジオブアートアンドデザイン修士課程取得。

2002年文化庁在外研修員としてロンドン、チューリヒにて舞台美術と映像を研修(2年間)。

日英を股にかけて活躍し、舞台美術のほか、テーマパークやイベントも手がける。

第32回伊藤喜朔賞(主催:日本舞台美術家協会)新人賞をPARCO劇場『GOOD』、新国立劇場『ヒトノカケラ』、世田谷パブリックシアター『見よ飛行機の高く飛べるを』によって受賞。

〔衣装〕 前田 文子(まえだ・あやこ)

1988年より舞台衣裳家・緒方規矩子に師事。芝居、オペラ、ミュージカル、舞踏等、様々な分野の衣裳デザインを手掛ける。

主な作品『欲望という名の電車』(栗山民也演出)、オペラ『欲望という名の電車』、『兄おとと』(共に鶴山仁演出)、

『ファンタスティックス』、『ユーリントウン』、『フィガロの結婚』(共に宮本亜門演出)、『オイディプス王』、『エレクトラ』、『ハムレット』(共に蜷川幸雄演出)他、多数。98年、文化庁在外研修員としてイギリスに留学。

95年伊藤喜朔賞新人賞、2002年に読売演劇大賞優秀スタッフ賞、03年伊藤喜朔賞を受賞している。